

## 1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、あらゆる差別をなくし、自他の生命を尊び、知性・感性・道徳性・体力に富む、心身ともに健康な児童を保護者・地域と協働して育てる。そのために自ら学び、考え、行動する力や個性を伸ばし、思いやりと規範意識を培い、共生社会を生きる上での基礎を育てる学校教育を推進する。  
 ○進んで学ぶ子      ○心やさしい子      ○たくましい子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童と共に      ・ ・ ・ 知・徳・体の調和のとれた児童を育成する学校      ○家庭・地域と共に      ・ ・ ・ 保護者・地域と協創する学校 ○全教職員と共に      ・ ・ ・ 組織として教育力を発揮する学校
○児童・生徒像	◎新学習指導要領への移行を踏まえ、知・徳・体の調和のとれた生きる力を身に付ける。 【進んで学ぶ子】基礎的な知識及び技能を身に付けるとともに、主体的・対話的な深い学びや問題解決の学習、体験的学習を通して、思考力・判断力・表現力等を身に付ける。【心やさしい子】あらゆる差別をなくし、規範意識をもって規則正しい生活習慣を確立するとともに、いじめをしない・許さない、思いやりの心で誰とでも接し、自分を大切に【たくましい子】暑さや寒さに負けず、日常からよく遊ぶとともに、運動が好きになり、投力などの体づくりの運動に取り組み、基礎的な体力を向上させ、我慢強くなる。
○教師像	◎目指す学校の実現に向け、校長のリーダーシップのもと、指導・事務・施設など人的・物的な教育環境の充実に組織的に取り組む。 ○教育公務員としての使命の自覚、サービスの厳正、危機管理意識、人間性を向上させる      ○研究、研修の日常化を図り、情熱をもって指導し、自らの指導力を高めようとする      ○保護者や地域の方々と円滑なコミュニケーションを図り、信頼されるよう努める。

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

**【学校の現状】** 開校18年目を迎え、地域に支えられている学校である。学区域外通学(約16%)及び外国籍児童(20名超)がやや増加する傾向にある。区域内にある商店街や4大学との連携した教育活動が盛んで、保護者・地域が一体となった活動が充実している。校舎の改築や校庭芝生化など保護者から要望が上がっている。  
**【前年度の成果と課題】** ①区学力調査の通過率・正答率は国語が横ばい、算数は学年により差がある。都の調査は前年度並み、国の調査はB問題の正答率が上昇。極端な学力低位層も散在し、日本語の適応指導が必要な配慮児童と併せて個別の対応が必要。②基本的な生活習慣の定着率は約8割。自己肯定感の傾向を把握する調査では前年度より微増。③休み時間等によく遊ぶ。運動能力・体力調査は区の平均並み。④就学前施設が毎年20園を超え、子供の交流圏が増加している。新しい保育園等との連携を広げている。⑤児童は素直で明るい。特別支援学級の児童に対しても優しく接している。⑥アレルギー対応児童が30名(エピペン6名)。保護者との綿密な連携、安全な給食の提供に努めている。⑦教員は入れ替わりの時期で、育休代替教員も多く、校内研究等を通し教育水準の維持向上に努めている。⑧教育への関心が高い保護者が多く、PTA、各ボランティア、おやじの会等、様々な面で協力的である。⑨商店街をはじめ地域の方々も児童の体験学習や行事のために支援していただいている。⑩4大学と連携、中学校と連携した教育活動に取り組んでいる。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間(年度) H:平成 R:令和				
		H29	H30	R1	R2	R3
1	学力向上アクションプラン(基礎的な知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力等)	◎	◎	◎	◎	◎
2	約束を守り、思いやり、自分を大切にできる心の醸成(規範意識・いじめの根絶・自己肯定感)	◎	◎	◎	◎	◎
3	体力・耐性を育てる(運動への意欲と体力、頑張る気持ち)	◎	◎	◎	◎	◎
4	異校種(保育園・中学校)と連携した教育を進める	○	○	○	○	○

## 5 令和元年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
① 区学力調査目標通過率は、その学年の前年度比－3P以内。新2年生は85%、全校は前年度程度 ② 都学力調査（5年）並びに全国調査（6年）都の平均正答率との差を前年度より上回る。		新2年－国 85.0、算 85.0 3年 －国 85.4、算 78.1 4年 －国 78.3、算 66.8 5年 －国 61.3、算 76.6 6年 －国 72.9、算 64.5 全校 －国 77.8、算 76.9		国語(81.3、88.0、84.2、81.9、75.9) <b>全校 79.9</b> 算数(90.6、82.8、85.3、80.0、73.5) <b>全校 82.0</b> 都(国+1.6、社+0.8、算+3.4、理-1.3) 国(国+3.3、算+2.7)		・ほぼ目標の通過率は達成した。特に算数については、初めて全校で通過率が80%を上回った。 ・課題は個人差への対応。日本語が不十分な外国籍児童を含め、各学年・学級に在籍している学力低位層への指導時間確保不可欠である。		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習 パワー アップ タイム	全児童 国語・算数	毎週 火水木金 国・算 朝 15分	担任が学習の基礎となる事項の確認や繰り返しを行う。使用教材は国語(MIM・音読・漢字等)、算数(「東京ベインクトリル(以下BD)」でABC判定された後の補充問題、校長作成問題他)	東京BDを 実施 (年4回)	東京BDの結果を 10%UP(年度 末)	平均約7.6%UP 最終正答率 (2年～6年) 85.2、72.4、85.5、 76.3、85.6%	目標値には達していないが、全ての学年でUPしている。	○
2 継続	放課後 教室	個別指導 を要する 児童 (国算)	毎週 月・火の 放課後 30 分	【指導体制】担任・専科 【取組のねらい・目的】 BDの補充学習による克服、MIMの 繰り返しによる克服。教材は教科書・プ リント・東京BD、MIM	・各課題 ・東京BD の実施(年 4回)	東京BDの結果 のUP(個々の目 標値(年度末))	4月と2月比較 22名/36名UP 伸び率2～6年 13.5、4.5、21.6、 7.4、2.0%	2年生と4年生が大幅に伸びている。4年生は「そだち」の効果でもある。	○
3 継続	夏季パ ワーア ップ教 室	個別指導 を要する 児童(国 算)	夏季休業 中10日間 (うち3 日間)	【指導体制】全教員①学習内容が定着していない児童への補充。②学習時間を確保し、個別の指導を行う。【使用教材】教科書・プリント等	夏休み前 と後の比 較(BD)	正答率10%以 上のUP	7月と11月比較 36名中、UPし た児童22名(6 1%)	7月と11月を比較。個人差が大きく変化が激しい児童もみられた。	○
4 継続	かけ算 九九チ ャレン ジ	2年生全 員及び未 習得児童	2年生及 び希望者 随時	【指導体制】校長・担任 【取組のねらい・目的】 かけ算九九の完全習得	校長によ る聞き取 り	3月までに全員 合格	2月28日現在、 86名/99名、 休校のため13名 が残った。	必須。保護者の協力がある。	△
5 新規	話の聞 き取り	国語	毎週1回	【指導体制】校長・担任 【取組のねらい・目的】 毎週1回の朝会での校長等の話を聴き、 要点・要旨・自分の考え等、発達段階に 応じてまとめる	プリン等 に記載し 担任が定 数化	80%以上の児 童が内容を正確 に聞き取る	定点観測し達成。 次回は2月	話す側(校長)の努力が膨大だが、児童の聴く力・書く力に繋がる。	◎

<b>重点的な取組事項－2</b>	約束を守り、思いやり、自分を大切にする心の醸成（規範意識・いじめの根絶・自己肯定感）
-------------------	--

A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学習、生活のルールを守り、他人を思いやる心をはぐくむとともにいじめをなくす。		毎月の学習・生活目標の達成度 80% 学年末のいじめの解消	・生活目標の達成度は1月末現在で平均約 81%。・いじめの認知 61 件、26 件観察中(12 月)、最終は 3 月	・意識をして児童の指導に当たれば児童も変わる。挨拶は定着	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
① 基本的な生活習慣（挨拶、忘れ物、廊下歩行等）の定着を図る。	・毎月の生活目標の達成目標を設定（80%）	・生活指導目標を具現化し、週ごとの重点目標を設定する。 ・長期休業後に「いきいきカード」活用	・4 月～1 2 月まで、84・84・83・83・78・73・86・81・78%。	・担任により評価の基準が曖昧（74%～95%） ・いきいきカードは起床と朝食等が 80%超える	◎
② いじめをしない、許さない心を培い、思いやる気持ちを育てる。	・保護者アンケートで「子供は学校が楽しい」という肯定的な回答が 85%以上	・毎日、1 回は子供どうしがよい点を発表する機会や場を設定する。 ・学期末に保護者アンケート。	・学習時間内の交流、帰りの会等での機会を設けている。（100%） ・「学校へ行くのを楽しみにしている」の回答は 90.5%。	・よさを認める風潮がある。自分をコントロールする力を育てる。いじめの検知力のアップが必要。	○
③ 児童の自己肯定感を高める	・「自尊感情の傾向を把握するための調査」を実施し、全校平均値（前年度 3.30）が 3.32 を上回る。また平均 3 未満の項目を減らす。（4→3） ※hyper-QU の活用	・自己肯定感が高まる機会や場の充実（千寿の郷訪問、商店街調べ、地域清掃、未就学児との交流場面など） ・児童のよさを見つける機会や場の確保	・自尊感情の調査全校 3.30→3.38 ・平均 3 未満の項目は 4→1 「自分はだめな人間だと思うことがある」 2.70→2.80。 今の自分に満足している 2.96→3.03 他の人の気持ちになれる 2.99→3.12 自分の判断や行動を信じる 2.99→3.11	・かなり前向きな児童が多くなってはいるので、さらに自信をもって取り組める機会や場を保障していく。	◎

<b>重点的な取組事項－3</b>	体力・耐性を育てる（運動への意欲と体力）
-------------------	----------------------

A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・外遊びを奨励し、遊びを通して運動の機会を増やす。 ・全校実施の運動を決め、投力とともに体力の向上を図る。		・外遊びの定点観測 80%の児童 ・特定運動種目の 2 回調査と 10%増 3 月に低は 5 0 m 走、中は反復横跳び、高はフットボールで比較予定	・前期 73%、後期約 80%。体力調査結果は男子は 2 年生を除くと都平均より高く女子は 1・3・5・6 年が上回る。特定の種目は 3 月だったため実施不可。	・継続的な練習など外遊びができない実態もあるので、体育の時間の重要性が増す。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
① 外遊びを奨励し、休み時間を確保する。	・学期に一度定点観測し、外遊びの人数 80%を目指す。	・学級ごとに約束をつくり、個人や集団遊びを計画的に実施する。	・学級ごとの遊び（月 1 回）、縦割り遊び（学期に 2 回）の機会を設け外遊びが定着。	・大人数が校庭で様々な遊びをすると怪我につながりやすい。	○

②運動が好きな児童を育てる。	・体育の時間を中心として、子供の技能を伸ばす工夫を図る。(器械運動)	・体育朝会を実施し、全校への周知を図るとともに、指導技術を学ばせる。	・体育実技研修会を2回実施し、指導技術の習得ができた。(跳び箱等) ・持久走、長縄の朝会を設け、体力向上を図った。	・跳び箱、マット、鉄棒などの技術指導についてはさらに研修の機会を設定する。	○
③学校全体での計画的な体力作りを実施する。	・長縄チャレンジ、短縄チャレンジ。自然教室等の開発	・年間を通して体力向上を図るための計画を立て実施する。〈自然教室含む〉	・体育部が準備し各学級の取り組みを推進。長縄は4学級が記録達成。 ・自然教室での山登りを実施した。	・長縄集会等は学級経営の一助となる。山登りは児童の成長に繋がった。	◎

<b>重点的な取組事項－4</b>	異校種（保幼・小・中）と連携した教育を進める
-------------------	------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・登校渋りを少なくする。 ・千寿桜堤中学校との連携を通して、進学数を高める。	・1年生の登校渋りを夏までに解消する。 ・高学年の登校渋りを卒業までに解消。 ・前年度の比率より高くする。	・年度当初の1年生の渋りは解消。全体的に増加傾向（2名・女4名） ・H29-70%、H30-74%、R1-70%	・不登校児童は校長室・保健室等に対応。二者関係の構築が課題。	△

<b>B 目標実現に向けた取組み</b>
----------------------

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
①幼保小の取組	教員交流2回、園児交流2回以上	・保育体験、子供同士の交流機会の確保	・私立保育園が増えたが、本校だけでは満杯で2回に分けている。	・近隣園の年長保護者会での講話は効果的。	○
②小中連携の取組	年6回＋α実施。授業研究2回	・児童と生徒の交流場面の開発	・研修は完全実施。夏季ボランティアを受け入れている。	・今年度中学校で道徳の講話ができ前進。	○
③学びの継続性	私立幼稚園、保育園への新規訪問	・幼稚園を訪問し保育公開の契機作り	・私立の幼稚園の就学前の訪問を実施。(調整中) 幼保で22園(健診時)	・20園を超える保育園、幼稚園との連携難	△

## 6 まとめ

<p><b>(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性</b></p> <p>知・徳・体のバランスのとれた児童を育成することが公立学校の使命で、毎年、少しずつ成長している。特に、教員の授業改善により算数の学力が向上している。また挨拶のしっかりできる高学年になり、社会科見学や自然教室、連合行事等がかかわった方々から賞賛の言葉をいただいている。年々体力の向上が見られ、今年度は区のサッカー大会も優勝した。次年度以降も、児童の自尊感情を高め、人も自分も大切にする児童を育てていく。</p> <p><b>(2) 保護者や地域へのメッセージ</b></p> <p>千住という地域に生きる学校であり、町会や自治会の様々な地域行事へ参加する児童が多い。学校は、子供同士が切磋琢磨し、人間関係やコミュニケーションを学ぶ場であるので、温かく見守り「お互い様」の精神で学校にご協力をお願いする。</p> <p><b>(3) その他（学校教育活動全般について）</b></p> <p>自然教室での山登り、道徳授業における「大人と子供の討論会」のほか、近隣の老人保健介護施設や保育園等、様々な体験機会を設けて子供たちの耐性と自己肯定感など心の育成を図っている。また、学校・学年・学級通信、ブログや配信メールなど積極的な情報発信に努めている。</p>
--